

科目区分	専門基礎分野	講師名	院外講師	学年	3学年	履修期	2学期		
授業科目	公衆衛生学								
単位・時間数	1単位・30時間	実務経験の有無	有 有						
授業方法	講義								
科目目標	1. 公衆衛生に関連する統計情報を活用し、組織的な保健活動について理解する。								
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第1回 公衆衛生とは   第2回 公衆衛生の活動対象   第3回 公衆衛生のしくみ   第4回 国際保健   第5回 高齢者保健   第6回 感染症とその予防対策   第7回 母子保健 歯科保健   第8回 成人保健 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第9回 職場と健康   第10回 健康危機管理・災害保健   第11回 障害者保健・難病保健 精神保健   第12回 学校と健康   第13回 環境と健康   第14回 疫学・保健統計   第15回 科目終了試験 科目の振り返り </td> </tr> </table>							第1回 公衆衛生とは  第2回 公衆衛生の活動対象  第3回 公衆衛生のしくみ  第4回 国際保健  第5回 高齢者保健  第6回 感染症とその予防対策  第7回 母子保健 歯科保健  第8回 成人保健	第9回 職場と健康  第10回 健康危機管理・災害保健  第11回 障害者保健・難病保健 精神保健  第12回 学校と健康  第13回 環境と健康  第14回 疫学・保健統計  第15回 科目終了試験 科目の振り返り
第1回 公衆衛生とは  第2回 公衆衛生の活動対象  第3回 公衆衛生のしくみ  第4回 国際保健  第5回 高齢者保健  第6回 感染症とその予防対策  第7回 母子保健 歯科保健  第8回 成人保健	第9回 職場と健康  第10回 健康危機管理・災害保健  第11回 障害者保健・難病保健 精神保健  第12回 学校と健康  第13回 環境と健康  第14回 疫学・保健統計  第15回 科目終了試験 科目の振り返り								
評価方法	筆記試験(100点)								
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② (医学書院) 2. 国民衛生の動向 2022/2023 (厚生統計協会)								
参考書	必要に応じて講義の際に教材として資料を配布する								
備考 (メッセージ)	一つひとつの現象やその背景を深く掘り下げて考えるとともに、問題の解決策を幅広く考えてほしいと思います。								

科目区分	専門基礎分野	講師名	院外講師	学年	3学年	履修期	2学期
授業科目	社会福祉・演習						
単位・時間数	2単位・30時間	実務経験の有無	無				
授業方法	講義・演習						
科目目標	1. 社会福祉と医療・社会保障の関連について理解する。						
授業計画	<p>第1～2回(講義)</p> <p>1. 現代社会と社会福祉</p> <p>1) 社会福祉の意義と理論</p> <p>2) 社会福祉の歴史と理念の発展</p> <p>第3～4回(講義)</p> <p>2. 社会保障制度と社会福祉制度</p> <p>1) 社会保障制度</p> <p>2) 社会福祉の法制度</p> <p>第5～6回(講義)</p> <p>3. 社会保険制度</p> <p>1) 医療保険、介護保険</p> <p>2) 年金保険、雇用保険</p> <p>第7～8回(講義)</p> <p>4. 社会福祉の対象分野とサービス</p> <p>1) 高齢者、障害児・者</p> <p>2) 児童、母子、一人親家庭</p> <p>3) 貧困・低所得層、その他</p> <p>第9～10回(講義・演習)</p> <p>5. 社会福祉援助活動の意義と方法</p> <p>第11～12回(講義・演習)</p> <p>6. 社会福祉と医療・看護の連携</p> <p>第13～14回(講義・演習)</p> <p>7. 社会福祉をめぐる動向公衆衛生とは</p> <p>第15回</p> <p>科目終了試験</p> <p>科目の振り返り</p>						
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 (医学書院)						
参考書	その他、参考図書については授業中に適宜紹介する						
備考 (メッセージ)	講義を中心とするが、必要に応じてビデオを用いる。また、適宜ディスカッションを求めることがある。毎回指定のテキストを持参すること。						

科目区分	専門基礎分野	講師名	院外講師	学年	3学年	履修期	1学期		
授業科目	関係法規								
単位・時間数	1単位・15時間	実務経験の有無	無						
授業方法	講義								
科目目標	1. 看護職の基本的な関係法規を理解する。 2. 看護職として働くため労働関連の法規を学習する。 3. 学習した法規をもとに、職務を遂行するための根拠や判断基準がわかる。								
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>第1回</p> <p>1. チーム医療と法の構造</p> <p>1) 医療スタッフに関する法の枠組み</p> <p>2) 医療スタッフの業務分担と連携に関する法の枠組み</p> <p>第2回</p> <p>2. 医療提供の理念と医療安全</p> <p>1) 医療法の歩み</p> <p>2) 医療提供の理念</p> <p>3) 医療安全</p> <p>4) 医療法の理念と実際</p> <p>第3回</p> <p>3. 人に関する法律</p> <p>1) 医療専門職</p> <p>2) 福祉専門職</p> <p>3) 非医療・非福祉専門職</p> <p>第4回</p> <p>4. 物・場所等に関する法律</p> <p>1) 物に関する法律</p> <p>2) 場所に関する法律</p> <p>第5回</p> <p>5. 支えるシステムに関する法律</p> <p>1) お金とサービスに関する法律</p> <p>2) 特別な配慮を必要とする人に関する法律</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>第6回</p> <p>6. 政策に関わる基本法等の関連法令</p> <p>1) 医療政策に関する法律</p> <p>2) 福祉政策に関する法律</p> <p>3) 災害政策に関する法律</p> <p>4) 情報政策に関する法律</p> <p>5) 食品安全政策に関する政策</p> <p>6) 人口政策に関する法律</p> <p>7) 社会的弱者政策に関する法律</p> <p>8) 労働政策に関する法律</p> <p>9) 女性政策に関する法律</p> <p>10) 環境政策に関する法律</p> <p>第7回</p> <p>7. インフォームドコンセント</p> <p>8. 看護過誤(医療過誤)</p> <p>1) 医療事故と法的責任</p> <p>2) 三つの法的責任</p> <p>9. 法と生命倫理</p> <p>1) 生命倫理総論</p> <p>2) 生命倫理各論</p> <p>3) 研究倫理</p> <p>第8回</p> <p>科目終了試験</p> </td> </tr> </table>							<p>第1回</p> <p>1. チーム医療と法の構造</p> <p>1) 医療スタッフに関する法の枠組み</p> <p>2) 医療スタッフの業務分担と連携に関する法の枠組み</p> <p>第2回</p> <p>2. 医療提供の理念と医療安全</p> <p>1) 医療法の歩み</p> <p>2) 医療提供の理念</p> <p>3) 医療安全</p> <p>4) 医療法の理念と実際</p> <p>第3回</p> <p>3. 人に関する法律</p> <p>1) 医療専門職</p> <p>2) 福祉専門職</p> <p>3) 非医療・非福祉専門職</p> <p>第4回</p> <p>4. 物・場所等に関する法律</p> <p>1) 物に関する法律</p> <p>2) 場所に関する法律</p> <p>第5回</p> <p>5. 支えるシステムに関する法律</p> <p>1) お金とサービスに関する法律</p> <p>2) 特別な配慮を必要とする人に関する法律</p>	<p>第6回</p> <p>6. 政策に関わる基本法等の関連法令</p> <p>1) 医療政策に関する法律</p> <p>2) 福祉政策に関する法律</p> <p>3) 災害政策に関する法律</p> <p>4) 情報政策に関する法律</p> <p>5) 食品安全政策に関する政策</p> <p>6) 人口政策に関する法律</p> <p>7) 社会的弱者政策に関する法律</p> <p>8) 労働政策に関する法律</p> <p>9) 女性政策に関する法律</p> <p>10) 環境政策に関する法律</p> <p>第7回</p> <p>7. インフォームドコンセント</p> <p>8. 看護過誤(医療過誤)</p> <p>1) 医療事故と法的責任</p> <p>2) 三つの法的責任</p> <p>9. 法と生命倫理</p> <p>1) 生命倫理総論</p> <p>2) 生命倫理各論</p> <p>3) 研究倫理</p> <p>第8回</p> <p>科目終了試験</p>
<p>第1回</p> <p>1. チーム医療と法の構造</p> <p>1) 医療スタッフに関する法の枠組み</p> <p>2) 医療スタッフの業務分担と連携に関する法の枠組み</p> <p>第2回</p> <p>2. 医療提供の理念と医療安全</p> <p>1) 医療法の歩み</p> <p>2) 医療提供の理念</p> <p>3) 医療安全</p> <p>4) 医療法の理念と実際</p> <p>第3回</p> <p>3. 人に関する法律</p> <p>1) 医療専門職</p> <p>2) 福祉専門職</p> <p>3) 非医療・非福祉専門職</p> <p>第4回</p> <p>4. 物・場所等に関する法律</p> <p>1) 物に関する法律</p> <p>2) 場所に関する法律</p> <p>第5回</p> <p>5. 支えるシステムに関する法律</p> <p>1) お金とサービスに関する法律</p> <p>2) 特別な配慮を必要とする人に関する法律</p>	<p>第6回</p> <p>6. 政策に関わる基本法等の関連法令</p> <p>1) 医療政策に関する法律</p> <p>2) 福祉政策に関する法律</p> <p>3) 災害政策に関する法律</p> <p>4) 情報政策に関する法律</p> <p>5) 食品安全政策に関する政策</p> <p>6) 人口政策に関する法律</p> <p>7) 社会的弱者政策に関する法律</p> <p>8) 労働政策に関する法律</p> <p>9) 女性政策に関する法律</p> <p>10) 環境政策に関する法律</p> <p>第7回</p> <p>7. インフォームドコンセント</p> <p>8. 看護過誤(医療過誤)</p> <p>1) 医療事故と法的責任</p> <p>2) 三つの法的責任</p> <p>9. 法と生命倫理</p> <p>1) 生命倫理総論</p> <p>2) 生命倫理各論</p> <p>3) 研究倫理</p> <p>第8回</p> <p>科目終了試験</p>								
評価方法	筆記試験(100点)								
テキスト	1. ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度 (メディカ出版)								
参考書	その他、参考図書については授業中に適宜紹介する								
備考 (メッセージ)	生活者の健康を守る制度が様々な法規と関係者の連携・協力のうでで成り立っていることを知ってほしい。								

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学年	3学年	履修期	2学期
授業科目	保健医療論Ⅱ (医療の進歩と倫理)						
単位・時間数	1単位・15時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	1. 生命倫理の諸問題や生命の尊厳を追求し、医療者としての倫理を理解する。						
授業計画	<p>第1回</p> <p>1. 医学・医療の歩み</p> <p>1) 人類の誕生と文化の発達</p> <p>2) 原始生活と病気・医術</p> <p>3) 医療の原始的形態</p> <p>4) 古代の医学</p> <p>5) 中世の医学</p> <p>6) 宗教医学からの脱却と医学の近代化</p> <p>7) 近代医学の基礎と臨床医学の近代化</p> <p>8) 近代医学の発展 — 現代医療の基盤</p> <p>第2～3回</p> <p>2. 健康と疾病</p> <p>1) 健康の概念</p> <p>2) 疾病</p> <p>3) 生活と健康</p> <p>第4回</p> <p>3. 医学と医療</p> <p>1) 医学と医療の違い</p> <p>2) 現代医療の本質</p> <p>3) 医療の実践</p> <p>第5回</p> <p>4. わが国の医療供給体制</p> <p>1) 医療供給体制の現状と整備の経過</p> <p>2) 医療関係者の現況と養成の実態</p> <p>3) 医療保障の現状と課題</p> <p>第6～7回</p> <p>5. 現代医療における諸問題</p> <p>1) 医療の進歩と医の倫理</p> <p>2) 医療における患者の権利</p> <p>3) 病状(真実)告知</p> <p>4) 脳死と臓器移植</p> <p>5) 死と生命保持、安楽死、死を共有する医療</p> <p>第8回</p> <p>科目終了試験</p>						
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	1. 新体系看護学全書 別巻 現代医療論 (メヂカルフレンド社)						
参考書	その他、参考図書については授業中に適宜紹介する						
備考 (メッセージ)	講義形式が中心となります。						